

固定資本と流動資本の項の後に、労働期間(生産期間、流通期間)が扱われている説明—固定資本と流動資本と労働期間との関係について・・・田部追加

第二巻の第一編で資本の変態とその循環を展開した後、第二編では資本の回転に移り、第8章から第11章では、固定資本と流動資本について詳しく述べられた。その後第12章から第14章では労働期間・生産期間・流通期間が扱われているが、ここで固定資本・流動資本に変わって対象を労働・生産・流通に置いた意義は何なのか、質問が出された。この章でマルクスがそれを述べている箇所を取り上げてみる。

酒井レポートにあるように、資本の回転で、固定資本と流動資本がどのような資本の還流の質的な違いを見せるのかを述べた後、その還流期間が労働期間の大小の違いとなって現れ、前貸し資本の大きさと違いとも関係していることを説明している。

固定資本と流動資本の大きさと違い、その回転が労働期間の長短の違いと重なっていることを説明している。

P341、4行目—その生産のために要求される労働期間は、その長短に応じて流動資本(労働賃金、原料および補助材料)を必要とするが、そのいかなる部分も、流通可能な形態にあるものではなく、したがって同じ作業の更新には役立ちえないであろう。むしろ各部分は、つきつぎに生産中の生産物の構成部分として、生産部面内に固定され、生産資本の形態に拘束されていく。

ㄥ、最終行—つきつぎに前貸しされていく追加資本の量は、労働期間の長さとともに増大する。

★固定資本と流動資本の大きさと還流は労働期間の長短と比例関係にある。-田部

P342 紡績と機械製造  
同額の資本投下

∴ 同じ割合で不変資本と可変資本に、又は固定資本と流動資本に分割投資  
∴ 労働日の長さ同一～労働期間の長さ以外は同一

①紡績業者—第1週の生産物が売られる、新たな労働力と原料買われる、同じ規模の生産が続行される。②機械製造の場合には、第一週に支出された流動資本を、三か月後に生産物の完成後に初めて貨幣に再転化し、新たに作業する。

○第一に①と②では、同じ投下資本量の還流の差がある。第二に、同額の生産資本が紡績と機械に充用されているが、新たな資本投下の大きさは紡績業者と機械製造業者とでは全く異なっている。

○紡績の場合、同じ資本が急速に追加更新され、同じ作業を新たに繰り返されるが、機械製造の場合、比較的緩慢にしか更新されず、その更新期限までにたえず新たな資本量が追加される。

○このように、資本の一定部分が更新される時間の長さ、すなわち前貸し期間の長さも異なれば、労働過程の長さに応じて前貸しされねばならない資本の量も(毎日または毎週充用される資本は同じであるにもかかわらず)異なる。

○次章で考察される場合のように、前貸し期間の長さが増大しても、そのために前貸しされるべき資本の量が、この期間の長さ按比例して増大するとは限らないからであるが、資本はより長く前貸しされねばならず、より大量の資本が、生産資

本の形態に拘束される。

#### P345

- 労働期間の著しい長い大規模な仕事の遂行が、完全に資本主義的生産のものとなるのは、資本の集積が極めて顕著になり、多面で信用制度の発達によって、自分の資本の代わりに他人の資本を前貸しし、好都合な手段が資本家に与えられるようになってからである。
- 労働日の生産物の増大—協業・分業・機械装置の充用は、同時に労働期間を短縮する。機械装置は建築機関を短縮、刈取り機や打穀気機は必要な労働期間を短縮、造船の改良は航海に投下される資本の回転期間を短縮する。
- 労働期間を短縮し、流動資本が前貸しされていなければならぬ期間を短縮する改良は、固定資本の増加に結びついている。特定の部門における労働期間は、単なる協業の拡張によっても短縮される。

#### P346

- 信用が資本の集積を媒介し、増大するかぎり、労働期間を、また回転期間を短縮することに寄与する。。
- 特定の自然条件によって規制されている産業部門では労働期間の短縮は生じえず、より速い回転という言葉は穀作には適用されない。

#### P347~349

- 家畜生産の事例—その言わんとすること
- 労働期間の長さ=商品の完成までの期間の長さに相応し、固定資本が生産物に移す価値部分が堆積し、この価値部分の還流が遅延する。しかし、この遅延は固定資本の投下の更新を引き起こすものではない。機械はその摩損の補填分が貨幣形態で還流することの遅速にかかわらず、生産過程で働き続ける。流動資本はこれと異なり、労働期間長さに比例して、資本が長期間固定されねばならず、たえず新たな資本が労働賃金、原料、補助材料として前貸しされねばならない。
- 還流の遅延は、固定資本と流動資本とに異なる作用を及ぼす。流動資本は、それを現物で更新するための追加資本が現存しないならば、還流の遅延によって機能不可能となる。

#### P350

- 労働期間の短縮方法  
新たな道具機の使用—機関車1台の生産の労働期間—絶対的に短縮  
紡績の諸方法による改良—生産物の急速な増加  
機関車製造の労働期間の長さは、紡績に比較すれば相対的には増大した。

以上